

<p>経済・経営</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 持続可能な農村の実現と社会関係資本</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会関係資本 ■ 共有資源 ■ 多様性 	<p style="text-align: center;">課題解決に役立つシーズの説明</p>
 <p style="text-align: center;">松下 京平 Kyohei Matsushita</p>	<p>【1】農村地域における社会関係資本の役割</p> <p>かつて日本の農村は、豊かな自然や美しい景観に囲まれ、長い歳月の中で豊かで独自の歴史・文化を育んできた。しかし、生活様式の変貌、グローバリゼーション、土地利用形態等の急激な変化に伴い、農村を取り巻く社会情勢は一変した。今では、過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う農村集落機能の低下により、農村の原風景としての景観、自然環境、伝統文化など、実に多くの有形無形の資本が喪失の危機に瀕している。</p> <p>これに対し、近年では社会関係資本という資本概念を活用することで、この難局に立ち向かおうとする流れがある。ここでいう社会関係資本とは、人間関係の中に見る信頼や互酬性の程度を指す資本概念である。社会関係資本が豊かに蓄積されている地域では、人々のつながりを介し繰り返される相互関係により豊かな人間関係が形成され、人々の協力行動を必要とする農業生産活動が促進され、農村に本来備わっていた豊かな自然環境が再発見されることで、農村が本来もちえた潜在力を十分に発揮することが期待される。</p>
<p>経済学部 准教授</p>	<p>【2】社会関係資本に関する研究課題</p> <p>社会関係資本は、その名称からも分かるようにある一つの資本概念であり、物的資本や人的資本と同様に生産要素として農村地域の経済活動(たとえば農産物栽培)において利用される。このとき、そういった経済活動の効率性を検討するにあたって、他の資本と同様に社会関係資本の価格が一体いくらであり、どの程度投入されたかを知ることは必要不可欠な作業といえる。しかし残念ながら、先に述べたように社会関係資本は人間関係およびその中に見る信頼や互酬性という資本形態をとるため、通常、市場で取引されることはなく、それゆえストックとしての資本量およびそれにつけられるであろう市場価格を知る術をわれわれはもたない。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>●専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経済学 ・農業経済学 <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1980年 生まれ ・2009年 京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士後期課程 修了 博士(人間・環境学) ・2009年4月 滋賀大学 経済学部 講師 ・2011年4月 滋賀大学 経済学部 准教授 	<p>そこで本研究では、以上の問題を総括的に検討するため、①社会関係資本の蓄積量はどのように計測することができるか(資本としての測定可能性)、②社会関係資本の蓄積量は第三者の手によって意図的に増やすことができるか(政策的観点からの投資可能性)、③投入要素としての社会関係資本のシャドウプライスは一体いくら(生産要素としての価値)、の3点を実証的に検証することを目的に据えることとした。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <p>●所属学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経済・政策学会 ・日本農業経済学会 ・農村計画学会 	<p>【3】検証方法</p> <p>①社会関係資本はその無形性ゆえしばしば表明選好データを用いて定量化される。しかし、多くの先行研究がその信頼性について疑問を投げかけており、その計測手法の改善が強く求められている。そこで、本研究では表明選好データに加え顕示選好データを活用すること、および経済実験等の手法を援用することで、社会関係資本の定量化という最も基礎的部分を検証・補強していく。</p>
<p>【主な業績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による雲月山草原の経済価値評価、農村計画学会、2013 ・Pollution from the Electric Power Sector in Japan and Efficient Pollution Reduction、Energy Economics、2012 ・農地・水・環境保全向上対策とソーシャル・キャピタル、農業経済研究、2009 	<p>②仮に社会関係資本が資本として何らかの経済活動の効率性に正の影響を及ぼすことが判明したならば、どのような制度の下で社会関係資本の蓄積量を増やすことができるかを知ることは政策実施者にとってはきわめて重要である。本研究では、様々な制度を対象とし、それらが実施される／されたことで、どの程度社会関係資本が蓄積されるかを計量経済学的に明らかにしていく。</p> <p>③非市場財としての社会関係資本のシャドウプライスを明らかにすることは容易ではない。この点においては、とりわけ環境分野においてその研究手法が開発されてきた非市場財の価値評価手法(たとえば仮想評価法)等を援用することで、無形財の経済的価値を明らかにしていく。</p>